

首都高速道路株式会社第4期(平成21年3月期)中間決算のポイント

(会計期間:平成20年4月1日～平成20年9月30日)

1. 連結経営成績の概要

(単位:億円 億円未満切捨て)

	平成21年3月期	平成20年3月期	増減	
	中間期連結実績(A)	中間期連結実績(B)	(A)	(B)
営業収益	1,298	1,344	45	
料金収入等	1,237	1,274	37	
道路資産完成高	43	49	5	
その他(関連事業)	18	21	2	
営業費用	1,291	1,288	3	
内:道路資産賃借料	987	967	19	
営業利益	7	56	49	
経常利益	10	59	48	
中間純利益	5	32	27	

営業収益は、1,298億円(前年同期比3.4%減)。営業利益は、7億円(同87.4%減)、経常利益は10億円(同82.4%減)、中間純利益は5億円(同83.5%減)で減収減益となりました。

- ◇ 営業収益については、高速道路事業において、ガソリン価格の高騰と景気後退、タンクローリー事故に伴う通行止めの影響等により、通行台数が112万台/日(前年同期比3.1万台/日減、2.7%減)となったことなどにより、減収となりました。
- ◇ 関連事業については、駐車場事業や国・地方公共団体等からの受託事業などを行っておりますが、受託事業の完成工事の減により、前年同期より減収となりました。
- ◇ 営業費用については、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構との「都道首都高速1号線等に関する協定」に基づく道路資産賃借料の支払い等により、前年同期より増加となりました。

2.平成21年3月期の連結業績見通し

(単位:億円)

	通期連結見通し	平成20年3月期	増減	
	(A)	実績(B)	(A)	(B)
営業収益	3,114	4,449	1,335	
料金収入等	2,495	2,558	63	
道路資産完成高	455	1,828	1,373	
その他(関連事業)	163	63	99	
営業費用	3,093	4,423	1,330	
内:道路資産賃借料	1,861	1,934	73	
営業利益	20	25	5	
経常利益	17	31	14	
当期純利益	12	20	8	

端数処理の関係で、計が合わないことがあります。

営業収益は、3,114億円(前年同期比30.0%減)。営業利益は、20億円(同21.4%減)、経常利益は17億円(同45.4%減)、当期純利益は、12億円(同41.1%減)で減収減益となる見込みです。

- ◇ 営業収益のうち、料金収入等については、前期と比較して、ガソリン価格の高騰と景気後退、タンクローリー事故に伴う通行止めの影響等による料金収入等の減により減収となる見込みです。
- ◇ 道路資産完成高については、晴海線(豊洲出入口～東雲ジャンクション)及び横羽線大師出入口(横浜方向)の開通等に伴う機構への引渡しを計上しています。なお、前期については、中央環状新宿線(4号新宿線～5号池袋線間)等の開通があり、今期はそれを下回る見込みです。
- ◇ 関連事業においては、受託事業の工事完成高の増により、前期より増収となる見込みです。
- ◇ 営業費用については、機構へ引き渡す道路資産の完成原価が減少すること等により、前期を下回る見込みです。

注)上記に記載した予想数値は、現時点での情報により判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含みます。実際の業績等は様々な要素により上記予想数値と異なる場合があります。

(参考)平成21年3月期の個別業績について

(単位:億円)

	中間期個別実績	通期個別見通し	事業計画	前年度実績
<高速道路事業>				
営業収益	1,280	2,950	3,094	4,386
料金収入等	1,236	2,495	2,632	2,558
道路資産完成高	43	455	462	1,828
営業費用	1,279	2,940	3,085	4,376
賃借料	987	1,861	1,974	1,934
道路資産完成原価	43	455	462	1,828
管理費	248	623	649	613
営業利益	0	10	8	9
<関連事業>				
営業利益	1	1	1	2
<全事業>				
営業利益	2	12	10	12
経常利益	2	5	0	12
当期純利益	0	3	0	9

端数処理の関係で、計が合わないことがあります。

注) 上記に記載した予想数値は、現時点での情報により判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含みます。実際の業績等は様々な要素により上記予想数値と異なる場合があります。